



BUSINESS REPORT

第93期

中間株主通信

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日

CONTENTS

- P 1 トップインタビュー
- P 5 連結財務ハイライト
- P 6 セグメント別データ
- P 7 株主様アンケート結果
- P 9 TOPICS
- P 10 会社概要／株式情報
- 裏表紙 株主メモ／株主優待情報

トップインタビュー

「ユーモアな食品を提供し、未来を作る会社」として全社一丸となって邁進。新たな取り組みと付加価値の創出にご期待ください

代表取締役社長

木村 成克



Q1 2025年上期を終えて所感や評価をお聞かせください。

2023年6月に当社の代表取締役社長を拝命して以来、前任の久野修慈会長が築き上げた経営基盤を継承・成長・発展させるべく、2025年上期も邁進してまいりました。そのような日々の中、特に最近は、社会が目まぐるしく変化していると感じています。これまでの常識が揺らぐ出来事が国内外で起きたり、以前はベールに包まれていた人の

心情が、ある瞬間から鮮明に見えたりするなど、時代の流れや変化を五感で感じ取っております。このような状況下、会社運営においても自身の感覚を研ぎ澄まし、社会の動きを察知し、反応しつつ、基盤の強化と事業拡大に努めてまいりました。

当社は、すべての皆様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、食を通して広く社会に貢献する会社を目指しております。「ユーモアな食品を提供し、未来を作る会社」のテーマのもと、砂糖・オリゴ糖事業をはじ

当第2四半期の業績について

売 上 高	16,667	百万円	(前年同期比 3.1%増↑)
営 業 利 益	1,448	百万円	(前年同期比 1.9%増↑)
経 常 利 益	1,570	百万円	(前年同期比 4.3%増↑)
親会社株主に帰属する当四半期純利益	1,516	百万円	(前年同期比 43.7%増↑)

通期の見通し

売 上 高	32,200	百万円	(前期比 1.0%減↓)
営 業 利 益	2,500	百万円	(前期比 13.2%減↓)
経 常 利 益	2,800	百万円	(前期比 8.3%減↓)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,400	百万円	(前期比 12.3%増↑)

め、各事業の推進に全身全霊、全社一丸となって取り組んでおります。

その結果、2025年上期は、前年に続いて業績を上げることができました。第2四半期の売上高は16,667百万円(前年同期比3.1%増)など、増加基調を維持しております。また、保有する投資有価証券の一部を売却したこと、ポジティブな状況を作り出しました。当社は去る10月29日にフジ日本株式会社(以下、フジ日本)とのアライアンス契約を締結いたしましたが、保有株の売却が精糖事業への投資及び基盤強化につながっております。フジ日本は、1949年に設立したフードサイエンスカンパニーです。祖業の精糖事業を基盤としつつ、水溶性食物繊維「イヌリン」を中心とした機能性食品分野において、世界を舞台にさらなる成長を目指している意欲的、挑戦的な企業です。お互いの強みを活かし、シナジー効果の最大化が期待できるアライアンス契約の締結は、絶好のタイミングと好機に恵まれて実現したといえます。当社としては、将来に向けた投資ができたと考えております。

先ほども申し上げましたとおり、現在の社会は変化が激しい一方で、不透明さも増しています。砂糖業界に注視すると、それに加えて気候変動や砂糖の価格調整制度の構造的な歪みがもたらす過重な調整金負担等により、早急な変革を迫られております。アライアンス契約は、「未来を作る会社」である当社にとって、新たな取り組みや付加価値を創出する契機になると期待しております。

Q2 上期の各事業における営業状況の振り返りと、 今年度の見通しをお聞かせください。

国内外の経済情勢が依然として不透明な中、当社グループはお客様をはじめ、地域社会、関係取引先、従業員およびそのご家族の安全と健康を最優先に考え、各事業で年度

計画の達成に向けて全力で取り組んでまいりました。

まず、基幹事業である砂糖事業については、お取引先やお客様のご理解とご協力を十分にいただいたことで実現した、原料価格高騰に伴う販売価格への転嫁とその浸透が、業績を押し上げたと分析しております。

また、精糖およびその他糖類などの国内販売については、家庭用製品こそ低調だったものの、業務用製品ではインバウンドや観光需要の増加が業績に好影響をもたらしました。さらに、今年の記録的な猛暑が追い風となり、飲料メーカー向けなどへの販売も好調に推移し、販売数量・売上高ともに前年同期を上回っております。

バイオ事業については、主力であるオリゴ糖部門において、タレント・美容家であるIKKO氏や落語家の林家つる子氏をメインキャラクターに起用し、“オリゴのおかげ=腸活”というイメージの定着に引き続き取り組んでまいりました。こうした取り組みはファンの獲得につながり、大容量タイプなどコアユーザー向け製品の需要を押し上げました。一方で、一部の家庭用製品や業務用製品では、伸び悩みが見受けられました。

しかし、その中でも『さとうきびオリゴ』の存在は特に注目すべきものでした。従来、オリゴ糖は「整腸作用」などの機能性が注目されてきましたが、奄美の豊かな大地で



育まれた『さとうきびオリゴ』の登場以降、ナチュラル志向のユーザー層も取り込み、現在では一定のファンの獲得と成果につながっております。今後は、オリゴ糖市場全体において、幅広く認知拡大と販売促進に努めてまいります。

2025年下期に関しては、国際的な粗糖相場の下落により、砂糖の原料である粗糖の調達コストが低下したため、去る11月より砂糖価格を8円値下げいたしました。これは、2018年7月以来、約7年ぶりの値下げとなり、砂糖業界にとっては大きな動きですが、当社の収益基盤を大きく揺るがすものではないと考えております。

経済メディアなどでも大きな話題として取り上げられておりますが、当社は、2025年5月9日に公表した2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）の連結業績予想について、上方修正を行いました。通期の売上高は322億円となる見通しです。

修正の理由としましては、セグメント別の振り返りにもありました通り、砂糖事業およびバイオ事業ともに手応えのある成果が得られていることに加え、投資有価証券の一部売却による特別利益が当初予想を上回る見込みとなつたためです。適正価格での仕入れや販売など、きめ細やかな経営に努めることで、今後も突発的な状況下において一定の利益を確保できると考えております。

Q3 当社の課題と今後の施策、成長戦略についてご説明をお願いいたします。

現在の日本は、経済、食料生産、人口問題など、さまざまな課題を抱えるとともに、まさに転換期を迎えておりえるでしょう。砂糖業界も例外なく岐路に立たされており、多岐に渡り対応が必要です。砂糖生産においては、安心・安全な製品を安定して供給するために、大規模な設備

やその運営への継続的な投資が不可欠です。また、物流システムの改善も成長戦略の一環となります。現在明らかになっている課題については、アライアンス契約を締結したフジ日本と協力することで、より効率的なロジスティクスの実現が可能になると考えています。

また、BtoCに強い当社とBtoBに強く、海外事業への知見もあるフジ日本とは、お互いの強みを活かし、シナジーを最大限に引き出せるよう協議を重ねながら、最善の選択ができると確信しております。両社の各部門で知識を交換・共有することにより、新しくユニークなアイデアが内側から生まれてくる可能性もあります。良きパートナーと出会えたことについて、ご期待いただければ幸いです。

DX・ITの推進については、生産性向上のため積極的な活用を進めています。具体的な活用例としては、物流施設におけるドライバーの待機時間を短縮するため、トラック予約受付システムを導入しました。これによりロジスティクスの効率化と人材活用の最大化を図っております。DX・ITを推進する一方で、企業としてセキュリティへの十分な意識が高い感度も求められます。外部からの脅威についても同時に対策を進めてまいります。

企業の成長には、人材への投資も重要な成長戦略です。当社は、コロナ禍によって見合わせていた新卒採用を再スタートいたしました。また、当社で働く若い世代の増加を踏まえ、また既存社員にとっても不可欠な教育やキャリアパスを明確にするため、教育体系の再構築にすでに取り組んでいます。私事で恐縮ですが、私は人材育成の会社で社会人としてのキャリアをスタートさせました。その経験を活かし、新たな教育体系を浸透させることで、世代や部門間の業務の円滑化や、社員の皆様の働きやすい環境づくり、さらには企業の成長にもつながると考えています。

社内の風通しの良さは、これからさまざまな形となって

皆様の目に映る機会があると思われますが、直近では、新商品を皆様にご紹介できるよう、準備を進めております。特にECというチャネルには大きな期待を寄せており、事業拡大の一環として、「Ashita+Lab（あしたプラスラボ）」という、QOL（生活の質）向上をテーマにした情報発信・交流型コミュニティサイトを2025年7月24日にオープンしました。本サイトでは、食事、運動、睡眠、ストレス管理、スキンケアの5つの要素を軸に、医師や専門家によるコラムなどの情報を発信しています。また、ユーザーとの交流や対話が生まれる場として形成しているため、今後はさらにお客様と意見を交わしながら、市場のニーズに先んじた商品開発を進めていけると考えています。

販売活動においては、業務提携している大東製糖株式会社（以下、大東製糖）との連携がより強化され、相互補完的な関係を築くことで、経営基盤の強化に努めています。また、社会貢献活動に関しても、業務提携によって積極性が増しております。当社はこれまで環境や社会貢献に取り組んでまいりましたが、今後は、たとえ小規模であっても子どもたちの成長の支えとなるようなプロジェクトを応援し、当社も積極的にその一員として活動していきます。これは、ある意味で「未来を作る会社」としての使命だと考えています。

Q4 最後に株主・投資家の皆様に メッセージをお願いいたします。

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当社は、お客様のおなかの健康に貢献する「おなかにやさしい会社」として、年度計画の達成に向けて全力で取り組み、前述のように、上期は飲料ユーザー向け商品の好調や、保有する投資有価証券の一部売却を主な要因として、

前年に続き業績を伸ばすことができました。ポジティブな状況は、通期の業績予想の上方修正としてもお示しておられます。

こうした状況のもと、当社は来年度を初年度とする中期経営計画の策定を進めております。この件につきましては、改めて皆様にご報告できるよう準備を進めるとともに、着実かつ確実に取り組んでおります。策定の根底には、久野会長の経営スタイルである「業界に尽くす良心的な企業であること」「独創的な事業を展開すること」「お客様にも寄り添うこと」の3つを据えており、経営マインドを継承しつつ、既存事業の再整備から新たな価値の創造まで、さまざまな取り組みを進めてまいります。

今後も当社は、株主・投資家の皆さまのご期待に応えられるよう、持続可能な成長に向けて着実に歩みを進め、飛躍を目指してまいります。今後とも変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



連結財務ハイライト

売上高



営業利益



経常利益



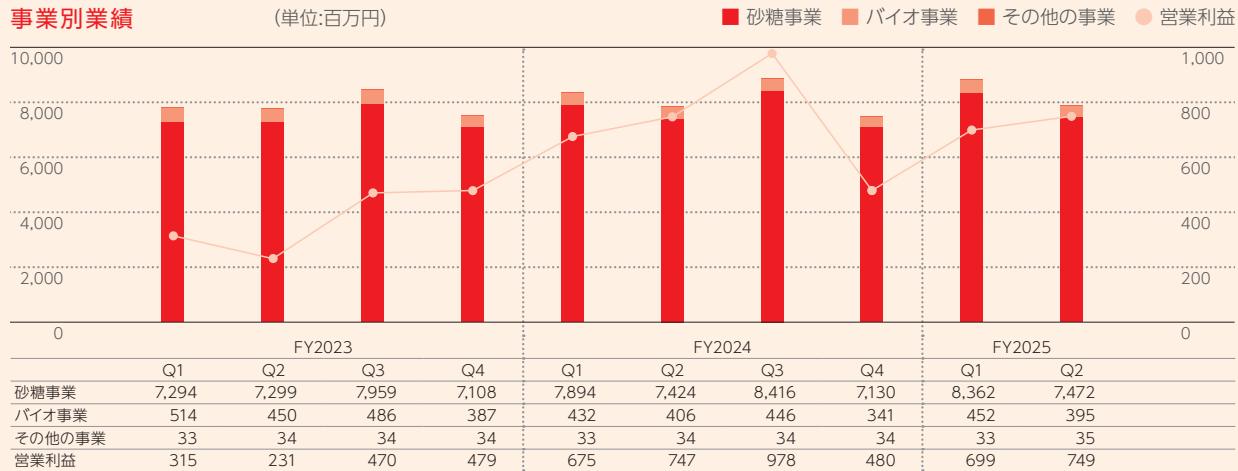
親会社株主に帰属する四半期純利益



配当金の推移



事業別業績



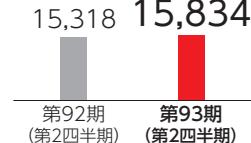
セグメント別データ



砂糖事業

■ 売上高 (単位: 百万円)

売上高	15,834 百万円 (前年同四半期比 3.4%増)
営業利益	1,973 百万円 (前年同四半期比 4.0%増)



海外原糖市況は、ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限、1ポンド当たり）が18.89セントで始まり、4月初旬に高値19.63セントを付けました。その後、米国の関税懸念で下落基調となり、さらには投機筋の売りが膨らんだことから6月末に4年ぶりの安値14.68セントを付けました。8月には17.05セントまで値を戻すものの、砂糖主要生産国であるブラジル中南部での生産が順調に推移しているとの観測から、一時15.10セントまで下落しました。その後買い戻しが入り、結局16.10セントで当中間連結会計期間を終了しました。

国内市中価格（日本経済新聞掲載、上白大袋1kg当たり）は、期初249円～251円で始まり、同水準のまま当中間連結会計期間を終了しました。

精糖およびその他糖類など国内販売では、家庭用製品が低調に推移したものの、業務用製品においてはインバウンドや観光需要が好調に推移し、また記録的な猛暑が追い風となり、飲料ユーザー向け等への販売も好調に推移したことから、販売数量・売上高ともに当中間連結会計期間を上回りました。

以上の結果、当期における砂糖事業全体の売上高は15,834百万円（前中間連結会計期間比3.4%増）、セグメント利益は1,973百万円（前中間連結会計期間比4.0%増）となりました。

バイオ事業

■ 売上高 (単位: 百万円)

売上高	847 百万円 (前年同四半期比 1.0%増)
営業利益	160 百万円 (前年同四半期比 14.2%減)

オリゴ糖部門は、美容家のIKKO氏や落語家の林家つる子氏をメインキャラクターに起用、“オリゴのおかげ=腸活”的イメージ定着を図るため、各種広告宣伝活動に取り組んでまいりました。大容量タイプなどコアユーザー向け製品の需要が着実に高まっている一方、一部家庭用製品及び業務用製品が低調に推移し、売上高は前中間連結会計期間を下回りました。

サイクロデキストリン部門は、一部ユーザー向けの大口受注が入るなど、売上高は前中間連結会計期間を上回りました。

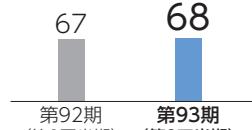
ビーツ部門は、ECサイトでの販売を中心に行いましたが、売上高は前中間連結会計期間並みにて推移しました。

以上の結果、当期におけるバイオ事業全体の売上高は847百万円（前中間連結会計期間比1.0%増）、原材料コスト等の上昇に伴いセグメント利益は160百万円（前中間連結会計期間比14.2%減）となりました。

その他の事業

■ 売上高 (単位: 百万円)

売上高	68 百万円 (前年同四半期比 0.8%増)
営業利益	38 百万円 (前年同四半期比 1.1%減)



その他の事業につきましては、ニューESRビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました結果、売上高は68百万円（前中間連結会計期間比0.8%増）、セグメント利益は38百万円（前中間連結会計期間比1.1%減）となりました。

株主アンケート結果



2025年6月に実施した「株主アンケート」には、多くの株主様からご回答をいただき、心より感謝申し上げます。また、温かいお手紙をお寄せくださった方々からの励ましのお言葉は、私どもにとって大きな喜びであり、今後の励みとなっております。ご多忙の中、貴重なご意見や温かいお言葉をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

いただいたご意見・ご要望は、今後の経営やIR活動の参考にさせていただきます。

以下に、アンケート結果をご報告いたします。

※株主アンケートは、スマートフォンで議決権を行使された株主様を対象に実施しております。

「株主アンケート」概要

アンケート方法

WEBでのアンケートを実施（「中間株主通信」に概要を掲載）

アンケート対象者

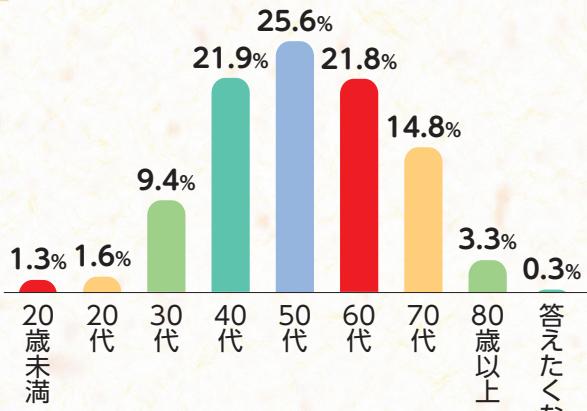
2025年3月31日時点
株主名簿記載の株主様

アンケート対象人数 12,381名

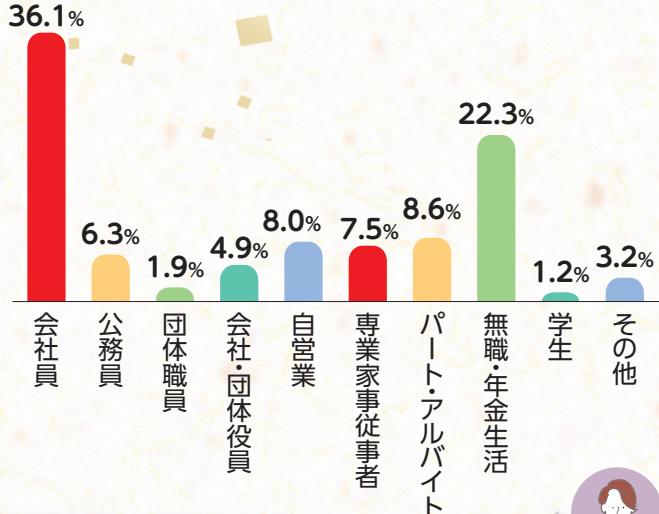
アンケートご回答数 4,201名

アンケートご回答率 33.9%

① 年齢



② 職業



株主様からの声

株主優待制度で長期保有による商品のグレードアップはよいことだと思います。



オリゴのおかげを長期愛用しています。
家族のお腹の調子が良いのは、オリゴ糖のお陰です♪



今後とも応援しています。
株価の上昇を期待しています。

PBR 1倍以下の解消に向け、IR活動等充実させてください。

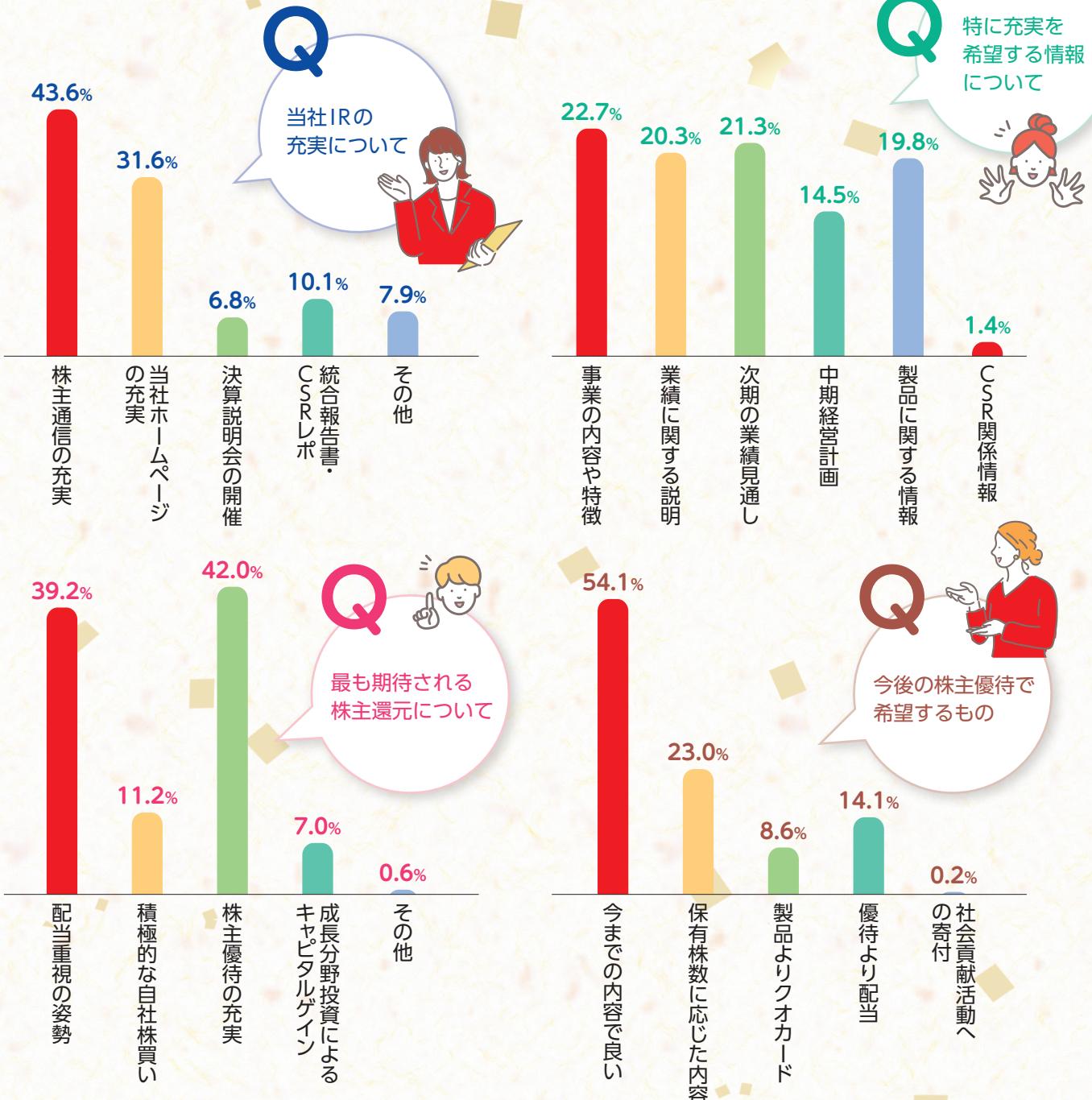


塩水なのに糖?と面白企業かと思ってましたが老舗だったのですね。応援しています



砂糖が大好きです。
優待があるかぎり、保有し続けます。





塩水港精糖とフジ日本、アライアンス契約を締結 ～精糖事業の基盤強化と、機能性食品事業のシナジー追求～



食を科学し世界をパワフルに!
フジ日本株式会社
Fuji Nihon Corporation



おなかにやさしい会社
創業明治37年
塩水港精糖株式会社
ENSIUKO SUGAR REFINING CO., LTD.

背景と目的

世界的気候変動、不透明さを増す世界経済情勢に加え、砂糖の価格調整制度の構造的な歪みがもたらす過重な調整金負担等により、砂糖業界はこれまでにない変革を迫られています。大手メーカーによる再編合理化が進む中、両社共に未来に向けた新たな取り組みを進めていくべきと考えております。

塩水港精糖は、明治37年に台湾で創業以来、日本の精糖業界をリードして参りました。同時にバイオ関連事業も推進し、「オリゴのおかげ」は30年を超えるロングセラーとなっております。歴史と共に、常に新しい挑戦を行い、健康な食生活に貢献し得る新たな付加価値を追求し続けております。

フジ日本は1949年に設立、2024年に社名から“精糖”的文字を取りフードサイエンスカンパニーへの変貌の決意を示しております。祖業の精糖事業を基盤としながらも、水溶性食物繊維「イヌリン」を中心とした機能性食品分野において、世界を舞台に更なる成長を目指しております。

長い歴史の中で培われた両社の特色、強みを活かし、シナジーを最大限に生み出すべく、以下の内容にて本契約を締結することとなりました。なお、今後両社間でプロジェクトチームを組成のうえ、具体的な取り組みを進めて参ります。

アライアンス骨子

製 造	共同生産工場における効率化及び設備更新において引き続き協力し、製造品質の向上と製造コストの低減を推進。
購 買	原料糖の相場及び生産地情報の共有、共同配船、共同購買などの施策を進め、購買コストの削減を推進。
ロジスティクス	製品倉庫の共同運用、共同配送等、効率的ロジスティクスを実現することによりコスト削減・CO ₂ 削減等を推進。
研究開発 商品開発	新素材の研究開発などの情報交換、小売商品の商品開発において可能な範囲内での情報開示及び商品の共同開発を検討。

精糖分野では、共同生産工場の運営を通じ、引き続き効率化と品質向上を図り、競争力のある工場を目指していくとともに、購買やロジスティクスの面で、更なる提携を図り、コスト削減・CO₂削減等を目指してまいります。

機能性食品(バイオ)分野では、塩水港精糖の強みであるリテール領域、フジ日本が得意とするBtoB領域・海外領域において、新素材の開発や、商品の共同開発を推進しシナジーを追求してまいります。

なお、上記以外のアライアンス強化につきましても、必要に応じ協議検討してまいります。

会社概要

CORPORATE INFORMATION

商 号	塩水港精糖株式会社 ENSIUKO SUGAR REFINING CO.,LTD.
本 社	東京都中央区日本橋堀留町二丁目9番6号 03-3249-2381(代)
創 立	明治37年2月
設 立	昭和25年7月
資本金	17億5,000万円
事業所	糖質研究所 関西営業所 工場／横浜共同生産工場(太平洋製糖㈱) 大阪共同生産工場(関西製糖㈱)
関係会社	(株)パールエース、(株)パールフーズ、太平洋製糖㈱、 関西製糖㈱、南西糖業㈱、(株)ナルミヤ
株式上場	東京証券取引所スタンダード市場
主要商品	精製糖(グラニュ糖、上白糖、三温糖、液糖他) 乳糖果糖オリゴ糖 (オリゴのおかげ、オリゴのおかげプレミアム30他) サイクロデキストリン (デキシーパール、イソエリート、デキシーエース他) サラシア属植物エキス末 ビーツ関連商材

取締役及び監査役

代表取締役会長	久野 修慈	取 締 役	及川 智明
代表取締役社長	木村 成克	取 締 役	濱保 健一
専務取締役	酒井 英喜	取締役(新任)	赤星 礼子
常務取締役	波多野 雅	取締役(社外)	三和 彦幸
常務取締役	伊藤 哲也	取締役(社外)	加藤 敦広
常務取締役	小田 俊一	取締役(社外)(新任)	阿部 奈美
常務取締役(昇任)	田畠 貴史	常勤監査役	山下 裕司
取 締 役	杉山 拓也	監査役(社外)	渡部 以光
取 締 役	和田守 真	監査役(社外)	金澤 賢一

株式情報

STOCK INFORMATION

(2025年9月30日現在)

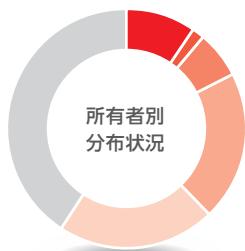
株式の状況

- 発行可能株式総数 80,000,000株
- 発行済株式の総数 35,000,000株
(自己株式7,477,429株を含む。)
- 当第2四半期末株主数 14,925名

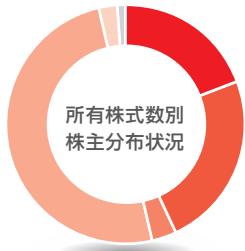
大株主

No	株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
1	大東製糖株式会社	4,060	14.75
2	フジ日本株式会社	1,360	4.94
3	株式会社みずほ銀行	1,353	4.92
4	INTERACTIVE BROKERS LLC	679	2.47
5	三菱UFJ信託銀行株式会社	603	2.19
6	株式会社榎本武平商店	550	2.00
7	大東通商株式会社	500	1.82
8	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	455	1.65
9	東京海上日動火災保険株式会社	340	1.24
10	野村信託銀行株式会社(投信口)	315	1.14

(注) 持株比率は自己株式(7,477,429株)を控除して計算しております。



金融機関	3,381千株	9.66%
証券会社	578千株	1.65%
外国法人等	2,206千株	6.30%
その他国内法人	7,123千株	20.35%
自己名義株式	7,477千株	21.37%
個人・その他	14,234千株	40.67%



100株未満	2,913名	19.52%
500株未満	3,577名	23.97%
1,000株未満	522名	3.50%
1,000株以上	7,509名	50.31%
5,000株以上	363名	2.43%
10,000株以上	41名	0.27%

株主メモ

株主優待 情 報

- 事業年度 每年4月1日～翌年3月31日
- 利益配当金の
株主確定日 每年3月31日および中間配当の支払いを行いうときは9月30日
- 基準日 定時株主総会については3月31日
上記の他必要がある場合は予め公告して臨時に基準日を設けることがあります。
- 定時株主総会 每年6月
- 公告・IR情報掲載
URL <https://www.ensuiko.co.jp/>
- 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目3番3号
みずほ信託銀行株式会社
- 事務取扱場所等

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話での お問い合わせ先	お取引の 証券会社に なります。	0120-288-324 (フリーダイヤル) (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、 株主配当金 受け取り方法の 変更等)		みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取り扱いで きませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払		みずほ信託銀行およびみずほ銀行の本店 および全国各支店
ご注意	支払明細発行について は、右の「特別口座の 場合」の郵便物送付 先・電話お問い合わせ 先・各種手続お取扱店 をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取 以外の株式売買は出来ません。証券 会社等に口座を開設し、株式の振替 手続を行っていただく必要があります。

決算期末（3月31日）現在の株主の方に対し、年1回当社製品を以下の基準により送付いたします。

対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された1,000株以上を保有されている株主様。

送付時期

毎年7月上旬に送付を予定しております。

送付先

毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された住所に送付しております。

ご優待の内容

保有期間	優待内容
3年未満	オリゴのおかげ300g 4本を含む3,500円相当の自社製品
3年以上	オリゴのおかげ300g 4本、オリゴのおかげプレミアム300g 2本を含む5,000円相当の自社関連製品

※「保有期間3年以上」とは、毎年3月31日現在において、当社の株主名簿に同一株主番号で、3年以上継続して記載または記録されている株主さま（同一の株主番号で3月31日現在、9月30日現在の株主名簿に、7回以上継続して記載または記録されている株主さま）をいたします。

※未着優待品につきましては、発送年の翌年3月末日までにお問い合わせ願います。

上記の期日を過ぎたお問い合わせにつきましてはご対応いたしかねます。恐れ入りますが、何卒ご理解賜りますよう、お願い申しあげます。



創業明治37年
塩水港精糖株式会社
ENSUIKO SUGAR REFINING CO., LTD.